

2023 年度 第 1 回 6 月阪大本番レベル模試 地理 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

I (配点 50 点)

問 1 15 点

A は中東の産油国であり、原油輸出で得た資金によるビル等の建設が盛んである。ゆえに外国から男性の建設労働者が多数移住し、国際移住者の人口性比が高い。C は農家の多い東北地方の県であり、農家は後継者の配偶者不足が深刻である。そのため発展途上国から女性が多数移住して配偶者となり、在留外国人の人口性比が低い。

【加点ポイント】

i) グループ A について (9 点)

①<2 点 (1 点×2)> 【グループ A の国の共通点】

○産油国 →1 点

○中東／西アジア／アラビア半島／ペルシア湾岸／オマーン湾周辺 に位置する →1 点

②<1 点> 【国際移住者の人口性比の特徴】

○人口性比が高い／男性が著しく多い

③<6 点 (2 点×3)> 【②の理由】

○原油で得た資金による／オイルマネーによる →2 点

○ビル等の建設が盛ん／リゾート建設が盛ん／建設ラッシュ →2 点

○(男性の) 建設労働者が移住する／肉体労働者が移住する →2 点

ii) グループ C について (6 点)

④<2 点 (1 点×2)> 【グループ C の県の共通点】

○東北地方 →1 点

○農家が多い／農業が盛ん →1 点

⑤<1 点> 【在留外国人の人口性比の特徴】

○人口性比が低い／女性の方が著しく多い

⑥<3 点 (1 点×3)> 【⑤の理由】

○農家の後継者の配偶者不足／農家の嫁不足 →1 点

○女性が配偶者として移住する／嫁として移住する →1 点

○(移住する女性は) 発展途上国から／途上国出身／東南アジア／中国／韓国 →1 点

問 2 15 点

イギリス領だったマレーシアには、同じイギリス領のインドから、鉱山や農園の労働力となる人々が多数移住した。現在その子孫は先住民より所得水準が高い。アメリカ合衆国には、高い理系教育を受け、英語に堪能な人材が多いインドから、技術者が多数移住した。彼らは、先端技術産業の集積地で新技術の開発等に貢献している。

【加点ポイント】

i) マレーシアでの印僑について (8 点)

①<3 点> 【印僑が増えた背景】

- 同じイギリス領のインドから連れてこられた
／どちらもイギリスの植民地だった時代にインドから連行された
(※マレーシアもインドもイギリス領(植民地)であったことが読取れれば 3 点加点する)
△「マレーシアがイギリス領だった」「インドがイギリス領だった」のみ →2 点

②<3 点> 【①の時代の役割】

- 鉱山(スズ鉱山)の労働力／農園(天然ゴム農園)の労働者／プランテーションの労働力
△「労働者／奴隷」のみで就労先が不明 →2 点

③<2 点> 【印僑の経済的な地位】

- 現在は先住民(マレー系住民)より所得水準が高い
／マレーシアの中では富裕層に位置する

i) アメリカ合衆国での印僑について (7 点)

④<4 点(2 点×2)> 【印僑が増えた背景】

- インドで高い理系教育を受けた／理数系に強い人材が多い →2 点
- 英語が堪能／英語が準公用語である →2 点

⑤<3 点> 【印僑の役割】

- 技術者／先端技術産業(ソフトウェア産業／コンピュータ関連など)に従事
／新技術の開発者／頭脳労働者

問 3 20 点

第二次大戦前、日本の貧困農民がブラジルに多数移住しコーヒー豆農園等の労働者になった。ゆえにブラジルには、その子孫の日系人が多い。20 世紀の終盤、日本で日系人の就労を認める法改正がなされると、日本に出稼ぎに来て製造業に従事する日系ブラジル人が増えた。しかし、リーマンショックで製造業が不振に陥ると、失業してブラジルへ帰国するものが増えた。近年は雇用の回復を背景に、来日する日系ブラジル人が再び増えている。

【加点ポイント】

i) ブラジルへの日本人移民(図 1)について (6 点)

①<2 点> 【日本人移民が増えた時期】

- 第二次大戦前／1911 年頃から／1926 年頃から

(次ページに続く)

②<2 点> 【移民の目的】

○労働者として／職を求めた／貧困から抜け出すため／小作人（コロノ）になった

③<2 点> 【②の就労先】

○コーヒー豆農園／大農園／ファゼンダ

ii) ブラジル国籍の在留外国人数の推移（図 2）について（14 点）

④<2 点> 【日本でのブラジル人が増えた時期】

○20 世紀の終盤／1990 年頃から

⑤<2 点> 【増えたブラジル人の特徴】

○日系人／日系ブラジル人／①～③の子孫

⑥<2 点> 【⑤の背景】

○法改正／法律改正／出入国管理法（入管法／出入国管理及び難民認定法）の改正

⑦<2 点> 【⑥の内容】

○日系人（日系 3 世まで）の就労を認める／日系人の単純労働を認める

⑧<2 点> 【⑥の就労先】

○製造業／工場／自動車工業／電気機械工業

⑨<2 点> 【日本でのブラジル人が減った時期】

○2008 年以降／2010 年頃から

⑩<2 点> 【⑨の背景】

○リーマンショック／世界金融危機

△「不況／不景気／製造業の不振／失業」のみ →1 点

II（配点 50 点）

問 1 15 点

緑の革命は穀物の高収量品種の導入を主とする技術革新であり、発展途上国の食料不足の改善に寄与したが、灌漑の整備や化学肥料の投入に多額の資本を必要とし、地域間、農家間の経済格差が拡大した。白い革命はインドのミルク増産を指し、宗教的な理由で動物性たんぱく質の摂取が不足しがちな同国の栄養状態の改善に貢献した。

【加点ポイント】

i) 緑の革命について（9 点）

①<2 点> 【緑の革命の目的・成果】

○食料増産のため／食料不足の改善／栄養不足人口を減らす

（※「食料」は「食糧」でも可）

②<2 点> 【①の方法】

○高収量品種（多収量品種）の導入（栽培／普及）

③<1 点> 【②の農作物として】

○穀物／米（稲）／小麦

（次ページに続く）

④<2 点> 【②のために必要なもの】

○灌漑の整備／化学肥料の使用／農薬の使用

⑤<2 点> 【緑の革命の負の成果】

○農家間の経済格差（貧富の差）が拡大／地域間で経済格差が拡大
／資金のある富農しか②を導入できなかった

ii) 白い革命について (6 点)

⑥<1 点> 【白い革命が起こった国】

○インド

⑦<2 点> 【白い革命の内容】

○ミルク（牛乳／生乳）の増産／乳製品の生産量と消費量の増加
／ミルクの流通網と供給体制の確立

⑧<2 点> 【白い革命の成果】

○動物性たんぱく質の摂取量の増加／動物性たんぱく質不足の改善
／栄養状態の改善

⑨<1 点> 【①でのたんぱく質摂取不足の背景】

○宗教的理由／ヒンドゥー教徒は牛肉を食べない
／菜食主義者（ベジタリアン）が多い

問 2 15 点

頁岩からシェールガスやシェールオイルを取り出す技術が開発され、主にアメリカ合衆国でそれらの生産量が急増したことをシェール革命という。これにより化石燃料の価格が下落し、化石燃料の輸入国は恩恵を受けたが、輸出国は悪影響を受けた。また、開発に伴い、地下水汚染や温室効果ガスの大量発生等の環境問題も生じている。

【加点ポイント】

i) シェール革命とは (9 点)

①<1 点> 【シェール革命が起こった国・地域】

○アメリカ合衆国／アメリカ／北アメリカ

②<2 点 (1 点×2) > 【シェール革命の対象資源】

○シェールガス →1 点

○シェールオイル →1 点

③<2 点> 【シェール革命の内容】

○②の増産／②の生産量の急増

④<4 点 (2 点×2) > 【③の背景】

○頁岩から／シェール層から →2 点

○取り出す技術の開発／採掘手法が確立された

／低価格で（効率よく）取り出せるようになった →2 点

(次ページに続く)

ii) シェール革命の影響 (6 点)

⑤<6 点 (2 点×3) > 【影響】

- 化石燃料 (原油/天然ガス) の価格が下落した →2 点
- 化石燃料の輸入国 (日本など具体例も可) は恩恵を受けた
/化石燃料の輸出国 (ロシアなど具体例も可) は悪影響を受けた →2 点
- 環境問題が起きた/環境負荷が高い/地下水汚染/土壌汚染/大量の水が必要となる
/採掘時のメタンガスの発生/温室効果ガスの増加 →2 点

問 3 20 点

※ 【指定語句】 食料増産 余剰労働力 工業都市 商業的 4 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

三圃式農業から混合農業への進化に伴う食料増産は農村人口を増やし、農村で余剰労働力となった人々が都市に流入して産業革命を支える工場労働者となった。また、産業革命による工業都市の人口増加は、混合農業を自給的なものから都市への農産物販売を目的とする商業的なものへと変化させ、冷涼地、干拓地といった穀物栽培に不利な地域では、都市に牛乳や乳製品を供給する酪農や、野菜や花卉等を供給する園芸農業が発達していった。

【加点ポイント】

i) 三圃式農業から混合農業への進化と産業革命について (6 点)

①<4 点 (2 点×2) > 【混合農業への進化の成果】

- 食料増産/穀物増産/食肉の増産 →2 点
- 人口増加/農村人口の増加 →2 点

②<2 点> 【①の産業革命への影響】

- (農村の) 余剰労働力が工場労働者となった/余剰人口が工業に従事するようになった

ii) 産業革命の農業への影響 (14 点)

③<2 点> 【人口分布への影響】

- 都市人口を増やした/工業都市が生まれた/工業都市の人口が増えた

④<2 点> 【③の農業への影響】

- 商業的農業の発展/都市 (工業都市) へ出荷するための農産物生産が盛んになった

⑤<4 点 (2 点×2) > 【④の具体例 1】

- 野菜/花卉 を供給 (生産/出荷) する →2 点
- 園芸農業/近郊農業 →2 点

⑥<6 点 (2 点×3) > 【④の具体例 2】

- 牛乳 (乳製品) を供給 (生産/出荷) する/乳牛を飼育する →2 点
- 酪農 →2 点
- 冷涼地/氷食地 (で行われた) →2 点